

幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐ
カリキュラム・マネジメント

■研究指定・委嘱地域(校等)

久山町教育委員会(久山中学校・久原小学校・山田小学校・けやきの森幼稚園・ひさやま保育園杜の郷)
桂川町教育委員会(桂川中学校・桂川小学校・桂川東小学校・桂川幼稚園)

研究の目標

幼児期から児童期、青年期への発達や学びの連続性を確保するための教育課程の編成や、幼児教育と小・中学校教育の連携を通して、円滑な接続を図る推進体制の在り方を究明する。

研究の内容

- 視点1: 主体的な学びをつなぐ幼・保・小・中のカリキュラム・マネジメント
- 視点2: 各中学校区における幼・保・小・中の連携推進体制整備

研究の実際

■視点1: 主体的な学びをつなぐ幼・保・小・中のカリキュラム・マネジメント

※カリキュラム・マネジメントを以下C・Mと表記

- 幼児教育、小・中学校教育の円滑な接続のための教育活動の創造
- 幼児が小学校に、小学生が中学校にあこがれを抱く教育活動の創造

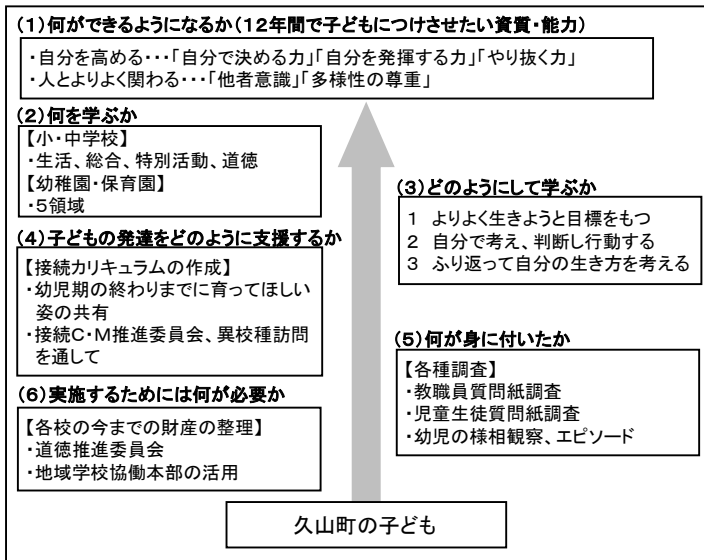
★ 久山町の実践

「伸びようと動く子ども」をめざす子どもの姿として全教職員で共有しています。



【めざす子ども像のイメージ図】

道徳教育を特色にし、「C・Mの6つの枠組」を基本として久山町の全教職員が、「めざす子どもの資質・能力一覧表」を意識したカリキュラムを作成、実施、評価・改善することで、12年間の一貫と継続を図っています。



【久山町C・Mの6つの枠組】

すでに行っている教育活動の価値を見直し、教師のねらい、子どもの目標を明確にすることが第一歩です。



【第6学年総合「わたしたちの首羅山遺跡」】

どの学年でも「自分を高める」「人とよりよく関わる」ための活動や学習を行い、下の資質・能力一覧表に沿った実践を行っています。

全教職員が一覧表を意識した授業計画・実践の充実を図ることで、12年間の教育のつながりがさらに強まります。

【自分を高める】

資質・能力	3つの力		幼稚園・保育園の姿	小学校1, 2年の姿	小学校3, 4年の姿	小学校5, 6年の姿	中学校の姿
	身に付けたい力	道徳科					
自分で決める力	誠実 自主・自律	すべきことを考える 役割意識や責任感	よいことを進んで行う 正直で素直に活動	周囲に流されない 自分の意思で判断行動	失敗を乗り越える 自分の責任で活動	正誤の判断 自らを律し、誇りと責任ある行動	
自分を発揮する力	個性の伸長 向上心	自分の力を発揮し、満足感や達成感の感得	ほめられてうれしかったことを実感、表現する	自分の長所に気付く	自分の長所を積極的に伸ばそうとする	長所を肯定的にとらえる 自己の個性を生かす	
やり抜く力	希望と勇気、 努力と強い意志	苦手なことにも挑戦 やり遂げようとする	自分のやるべきことを最後までやり遂げる	自分で決めた目標に向かって粘り強くやり遂げる	より高い目標を設定し、 困難があってもくじけずにやり遂げる	困難や失敗も受止める 自分の弱さに打ち克つ 挑戦することから逃げずに努力	

【各年齢、学年で段階的にめざす子どもの資質・能力一覧表～自分を高める～】

★ 桂川町の実践

ふるさとを愛し、
未来を担う子ども

【自己表現力】
郷土を誇りに思い、高い志と理想をもって、自らの夢の実現に向けて学び続ける子ども

【社会参画力】
地域の人々と支え合い、協働しながら桂川町の未来を切り拓く資質と能力を身につけた子ども

【めざす子ども像】

よりよい生活をめざす【自己表現力】と社会での役割を果たす【社会参画力】の育成を目指しています。

各部会でめざす子ども像と育てたい資質能力を構築・共有したことや、「ふるさとを愛し、未来を担う子どもの育成」カリキュラム(以下ふるさと学習一覧表と表記)、アプローチ・スタートカリキュラムを作成したことで、校種を越えたつながりが明確になっています。

幼・小の教職員が連携して作成した、アプローチ・スタートカリキュラムをもとに、学習内容の改善を図っています。



【第1学年生活科「きせつとなかよし あき」】

各部会でめざす子ども像と育てたい資質・能力が具体化するよう協議を重ねたことで、12年間を通して、一貫性のある系統的な内容となっています。

「ふるさと『けいせん』プロジェクトの系統(ねらい等)」を踏まえ、ふるさと学習一覧表を作成したことで、園や各学校の活動のつながりや活用する「人・もの・こと」が明らかになり、内容の充実につながっています。

部会	学年等	段階	ねらい等
第1	幼稚園	気づく	家族や学校、地域の一・もの・こととの具体的体験を通して、親しみや愛着、感謝の念をもち、自分への理解を深める
	小1・小2	知る	地域の生活を支えている人々の働き、思いや願いを調べる活動を通して、地域社会の仕組みを理解し、誇りや愛情をもつ
第2	小3・小4	知る	地域の環境や伝統・文化を保護、継承している人々の働き、思いや願いを追究し、地域の一員としての関わり方を考える
	小5・小6	分かる	地域の環境や伝統・文化を保護、継承している人々の働き、思いや願いを追究し、地域の一員としての関わり方を考える
第3	中1	働きかける	地域の環境や伝統・文化を保護、継承している人々の働き、思いや願いを追究し、地域の一員としての関わり方を考える
	中2・中3	働きかける	地域の環境や伝統・文化を保護、継承している人々の働き、思いや願いを追究し、地域の一員としての関わり方を考える
第4	中2・中3	貢献する	地域の環境や伝統・文化を保護、継承している人々の働き、思いや願いを追究し、地域の一員としての関わり方を考える

【「ふるさと『けいせん』プロジェクト」の系統(ねらい等)】

めざす子ども像	各学年において重点化する生活科単元、総合的な学習の時間の探究課題		活用する人・もの・こと
	自己表現力	社会参画力	
幼稚園	園内外の環境に親しみ、生活に取り入れることを楽しもうとする子ども	小学生との交流を通して、小学校生活にあこがれや期待をもつ子ども	桂川幼稚園
	家族や学校、地域に親しみ意欲や自信を持って学ぼうとする子ども	家族や、学校、地域に支えられながら成長している自分自身に気付く、自分の仕事に意欲的に取り組もうとする子ども	桂川小学校
小1			桂川幼稚園
小2			桂川小学校

【ふるさと学習一覧表の一部】

研究の実際 ■ 視点2：各中学校区における幼・保・小・中の連携推進体制整備

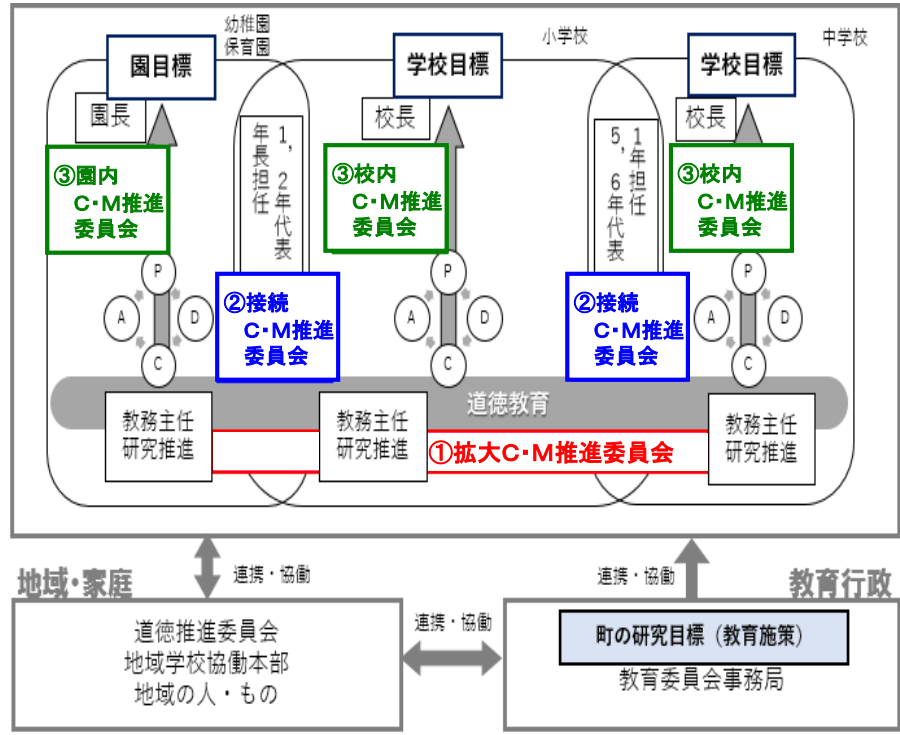
※カリキュラム・マネジメントを以下C・Mと表記
 幼児教育アドバイザーを以下幼児教育ADと表記

- 幼・保・小・中の相互理解を担う幼児教育アドバイザーの役割
- 幼児からの一貫した教育を推進する教育委員会などの支援
- 連携推進委員会の設置による指針状況の分析・検証

★ **久山町の実践**

拡大C・M推進委員会、接続C・M推進委員会、校内C・M推進委員会を確立することで、幼・保・小・中の連携を強めています。また、幼児教育ADや教育委員会がそれぞれの役割を果たすことで、C・M推進委員会のスムーズな運営につながっています。

- ①拡大C・M推進委員会(年3回)**
 - ・校種を越えてめざす資質能力を中心に共有、調整
 (道徳教育推進の代表校長、幼児教育AD、各校・園教務主任、各校・園研究推進担当、教育委員会指導主事)
- ②接続C・M推進委員会(年3回)**
 - ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの推進
 (各校・園教務主任(幼児教育AD含む)、1年生担任、年長担任、教育委員会指導主事)
 - ・小学校と中学校をつなげるカリキュラムの推進
 (各校教務主任、中1年生担任、小6年生担任、教育委員会指導主事)
- ③校内(園内)C・M推進委員会(年4回以上)**
 - ・具体的にカリキュラムを作成、チェック
 (園長、学校長、教頭、教務主任、道徳教育推進担当教師、研究主任)



3つのC・M推進委員会を計画的に開催したことで、子どもの活動や交流の様子を通じた段階的な協議を行うことができ、幼・保・小・中の連携をさらに強めています。

	協議内容と組織	開催月
1	幼・保・小・中一貫した子ども像を明確にする。 拡大C・M推進委員会(仮) ※ 校長・教頭会で確認	令和元年 5～6月
2	理想の子ども像に近づくための軸となる教科等を選択する。 教育委員会 拡大C・M推進委員会(仮)	
3	推進のための3つの組織を作る。日程を決める。 教育委員会 ※ 校長・教頭会で確認	7月

【令和元年度からのC・Mの手順の概要の一部】



幼児教育ADが中心となり、幼・保・小の教職員と共にアプローチ・スタートカリキュラムの整備を行うことで、子どもの発達段階を踏まえた連携、接続時の効果的なC・M推進を図っています。

教育委員会が地域学校協働本部等を活用して、必要なる人的・物的支援を行うことで、地域と一体となった取組を行うことができます。

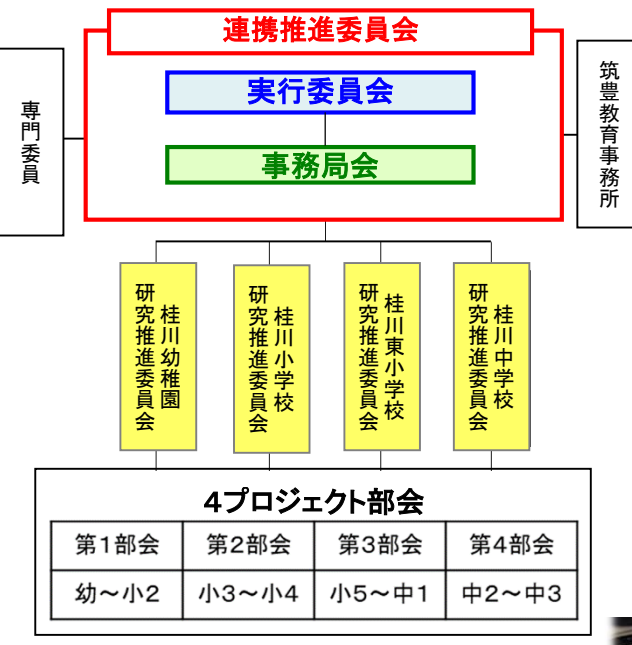
【3つの推進委員会の概要図】

【接続C・M推進委員会の様子】

★ **桂川町の実践**

連携推進委員会のリーダーシップのもと、幼・小・中連携推進マネジメントロードマップを作成し、推進委員会の取組が具体化されたことで、4プロジェクト部会に所属する全教職員の協働的な意識が高まっています。

- 連携推進委員会**
- ①実行委員会(年3回程度)**
 - ・本事業の推進に関わる事項に関する審議決定
 (教育長、校長、園長、教育委員会課長等、PTA連絡協議会会長、地域学校協働活動推進員)
 - ②事務局会**
 - ・計画案を作成検討、資料提供
 - ・合同研修会・部会研修会の定期的な企画・運営
 - ・研究内容の分析検討、資料作成
 (教育委員会指導主幹等、教頭、園教務主任、主幹教諭、園教諭、教育事務所指導主事)



段階	連携推進委員会	段階	校内研究推進委員会
4月	(P) ・新体制での研究推進体制の確立 ・研究内容与方法の共有	(P)	・新体制での研究推進体制の確立 ・研究内容与方法の共通理解 ・一学期実践に向けた計画
5月	(D) ・各部会代表授業者による授業実践	(D)	(D) ・「ふるさと学習一覧表」に沿って授業実践 (C) ・振り返りシート
6月	(D) (C) (A) ・振り返りシート ・プロジェクト部会を中心に授業改善案	(D)	(A) ・校内部会を中心に授業改善案

【幼・小・中連携推進マネジメントロードマップの一部】

既存の低・中・高学年部会を生かした4プロジェクト部会とすることで、全職員の共通理解と協力体制の構築を図っています。

【組織図】



【第1部会の様子】

幼・小・中連携推進マネジメントロードマップを作成したことで、2つの推進委員会における年間の取組が明確となり、スムーズな会の運営につながっています。

幼児教育ADを中心に幼・小の教職員が公開授業や接続期の取組等の協議を重ね、アプローチ・スタートカリキュラムを作成することで、幼・小のつながりが強まっています。